

新型コロナウイルスの影響による上海地区の現状について



9/16（木曜）

今月2日、上海市で新型コロナウイルス感染者が一名確認されました。

上海では海外から入国後に感染が確認される「輸入症例」は数例出ていたものの国内感染者は約半年ぶりで、毎度のことながら速やかに空港で働く約5万人にPCR検査を実施し、感染者の行動追跡調査を完了させた上、感染者居住のマンション一帯を中リスクエリアとし、住民約5千人がロックダウンされる状況となりました。

今回の感染者は、上海浦東空港の貨物ターミナルで働く作業員ということで上海発着の航空貨物への影響が懸念されましたが、初旬こそ大きな影響はなかったものの、中旬頃から新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした防疫体制（封鎖管理）が上海浦東空港においても本格的に運用されることとなり状況が一変しました。

「外防輸入，内防反弹」 外部からの流入と内部での再拡大を防ぐ

「人，物，环境同防，严格落实闭环管理」 ヒト・モノ・環境を厳格に封鎖管理

上海浦東空港発の輸出貨物については、貨物ターミナル等で働く作業員の2週間ごとの輪番制（14日の業務期間は指定ホテル泊で指定車両による現場との行き来のみ・外部との接触禁止、業務期間終了後は指定場所で14日の集中隔離）によりハンドリング能力が通常の50%程度にまで低下しました。

マンパワー不足による影響で貨物滞貨、積み込みの遅れ、更にはフライト減便、キャパシティ不足などが続いています。これから国慶節に向けて一番のピークシーズンを迎えるにあたり大きな影響が出るのが懸念されます。

上海浦東空港着の輸入貨物については、同じくターミナル作業員減少と消毒作業による影響で荷捌きが約半日程度遅いものの、海外からの貨物搭載率や受託自体を一時停止、制限するなどにより、今のところは大きな混乱には至っておりませんが、日本発のスペース不足が深刻となっています。

中国民用航空局（民航局）においては、空港を経由した新型コロナウイルスの感染が拡大していることを受け、空港や航空会社従業員のPCR検査強化や機内での防疫体制を強化すると発表しています。国際線の旅客業務に当たる従業員や国際貨物の取り扱い、航空機関連の業務を行う現場作業員に対して2日に1回のPCR検査を義務付けています。

更に今月20日から21日にかけても浦東空港貨物エリアで働く作業員から新規感染者が5名確認されており、封じ込め対策はしているものの、全ては海外からの輸入（ヒト・モノ）が感染源とされている為、今後も水際対策及び市内での防疫規制を徹底していくものと思われます。